

審議会会議録

1 会議の名称	平成 29 年度第 1 回富津市子ども・子育て会議
2 開催日時	平成 29 年 6 月 27 日 午後 2 時～午後 4 時 25 分
3 開催場所	富津市役所 504 会議室
4 審議等事項	○議題 (1) 今年度の会議スケジュールについて (2) 子ども・子育て支援事業計画の平成 28 年度 実施報告について (3) 子ども・子育て支援事業計画の中間年の見 直し方針（案）について (4) その他
5 出席者名	委員 鵜田 勝、宮里幸樹、井上久吏子、白井佳恵、小 曾根勝己、相澤靖司、白石喜好、高橋多賀子、鈴 木眞廣、平野香織、岩瀬志帆、岡村京子、松倉佳 子、渡辺務、竹谷覚治 事務局 島津健康福祉部長、木村子育て支援課長、小柴保 育係長、中山子ども家庭係長、圓川主査、三浦指 導主事
6 公開又は非公開 の別	公開 ・ 一部非公開 ・ 非公開
7 非公開の理由	
8 傍聴人数	1 人（定員 5 人）
9 所管課	健康福祉部子育て支援課子ども家庭係 電話 0 4 3 9 - 8 0 - 1 2 5 6
10 会議録（発言の 内容）	別紙のとおり

平成 29 年度第 1 回富津市子ども・子育て会議 会議録

発言者	発言内容
事務局：中山	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の確認
事務局：中山	<p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議の成立 <p>岩瀬委員が開会に遅れる。14名の委員の方が出席しており過半数を超えているので、子ども・子育て会議設置条例第6条第2項の規定により、会議は成立する旨報告。</p>
事務局：中山	<ul style="list-style-type: none"> ・会議の公開 <p>この会議は、富津市情報公開条例第23条の規定により公開する。</p> <p>傍聴人1名あり。</p>
渡辺会長	<p>2 会長挨拶</p> <p>平成29年度第1回の会議。日頃から「天は自ら助くる者を助く」、この言葉をよく話している。思想家の井上正直が『西国立志論』で書いた。国や県に頼っているのではなく、自分たちが自分たちの必要に応じて、自分たちの考えたことを実践していくということが、地域活性化の一番のポイント原動力、今に通じると考える。行政の役割、議会の役割、障壁をなくしていく。皆さんの考えていることをどうやったら実現できるか考えていくのが事務方、政治の仕事だと思う。現場からの声を直接行政に届けられる場がこの子ども・子育て会議である。市民と行政の窓口をつなぐ役、架け橋という役割を自覚してやっていければと考えている。</p>

事務局：島津部長	3 健康福祉部長挨拶
事務局：木村課長	4 委員及び職員紹介 名簿順に紹介
渡辺会長	5 会議録署名人の指名 会長のほか、平野委員にお願いする。
渡辺会長	6 議題 ＜（１）今年度の会議スケジュールについて＞ （１）今年度の会議スケジュールについて事務局の説明を求める。 《資料１に沿って説明》
事務局：木村課長	・今年度は３回の会議開催を予定。 ・時期及び予定議題は資料１のとおりとしたい。 ○意見、質疑 なし
渡辺会長	＜（２）子ども・子育て支援事業計画の平成２８年度実施報告について＞ （２）子ども・子育て支援事業計画の平成２８年度実施報告について、事務局の説明を求める。 《資料２について説明》
事務局：木村課長	・幼児期の学校教育・保育の量の見込みと確保方策に対する実績値、充足率を地区別、認定区分ごとに報告。 ・地域子ども・子育て支援事業の実施結果を報告。
相澤委員	○意見・質疑等 ・パーセントが高いと逼迫しているという認識か。余

事務局：木村課長	<p>裕のあるところに逼迫している分を振り分けては？人的な要因なら方策も考えられるのではないか？</p>
相澤委員	<p>→パーセントが高いと定員に近い状況。私立は定員を超えている園もあるが、公立は余裕がある。また、天羽地区は子どもの減少が著しく、充足率が低い。入れる保育所を紹介して案内はしている。</p>
事務局：木村課長	<p>・充足率には保育士の数と子供の数は影響があるのか？</p>
井上委員	<p>→確保方策・定員との割合。現有施設の定員の合計値に対してである。</p>
事務局：木村課長	<p>・平成28年度実績で待機児童がいなかったのか？</p>
鈴木副会長	<p>→いない。</p>
	<p>・資料が分かりにくく、傾向と対策が浮かばない。重点を置くところが思えるように作ってほしい。0歳、1歳2歳のニーズが高まっているのは傾向として分かっている。今まで、3歳、4歳、5歳の保育室を確保することをしてきた。保育施設整備ができていない。課題としてある。</p> <p>人口減少の中で将来に対しての見込みがつかないのに、増設するのか。個々の施設で判断するのではなく会議をしていかないと動けない。市全体として、戦略的に、今後の認定量を見込んで設備投資をしていくのか。</p>
事務局：木村課長	<p>→検討すべき重要な課題と認識している。</p> <p>例えば、公私の保育所で役割分担をする。0歳、1歳、2歳専用の保育所を指定するなど、方策を検討する必要がある。</p> <p>近隣市では1歳2歳の待機児童が発生して、市域を超えて管外委託の協議が良くある。今後のあり方をもんでいただきたい。</p>

井上委員	<ul style="list-style-type: none"> ・0歳、1歳、2歳保育ニーズは高いが、一時利用も同じだろう。ファミサポの利用だけでない。 <p>保育所側の事情もあるだろうが、もう少し預けやすい環境でないと子育てしにくいという声も聞く。</p>
渡辺会長	<ul style="list-style-type: none"> ・柔軟に対応して、融通、やりくりできるのではないかという考え。
井上委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ここなら1日10人は預かってもらえるというような保証があるといい。
事務局：木村課長	<p>→現場対応できていないことが課題。</p> <p>一時保育を知らない方、どう利用していいのかわからない方、周知が足りていないので、まずは周知をする。どうやったら受け入れられるのか、他で受け入れる、ネットワーク化を検討したい。</p>
鈴木副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・預けたい、預かるミスマッチをどう解消するか、どこにミスマッチがあるのか、改善方法が見えてこないと検討で終わる。情報開示すれば解決する簡単なことではない。
渡辺会長	<ul style="list-style-type: none"> ・利用したいけど利用できない人の声をどう汲み上げるのか？
井上委員	<ul style="list-style-type: none"> ・よく転居をし、他市のサービスを利用していた人から聞いたが、職員がふらっと来て声を聞くそうだ。親も行政もお互い動いて声を出すことで話せるようになる。
宮里委員	<ul style="list-style-type: none"> ・一時保育は未就園児が対象だが、小学校の低学年が一時的に利用するサービスは無いのか？自分の経験から必要性を感じる。
事務局：木村課長	<p>→小学生はファミサポや放課後児童クラブの一時利用もある。</p>
井上委員	<ul style="list-style-type: none"> ・青堀地区では放課後児童クラブにかなり待機児童がいる。母親が仕事の時間を調整している場合も多い

<p>岡村委員</p>	<p>が、長期休みには厳しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まさに支援員同士でこの問題を話し合ったばかり。夏休み期間のみの利用にも対応できるようにクラブ間で話し合っている。保護者が送迎できればさぬキッズで受け入れる。
<p>鴫田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実績報告ということだが、既に市の方針や課題の記載がある。これで固定してやっていくのか？
<p>事務局：木村課長</p>	<p>→固定ではない。実績報告する上で、今後の方向性など市の考えを報告している。ご意見を頂ければと考えている。</p>
<p>鴫田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・議論が反映されれば良いと考える。課題があるのに、現行と同様にとというのはすぐわないだろう。
<p>鈴木副会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者支援事業に母子保健型を検討すると説明があったが、健康支援だけでなく、既に相談者を子育て支援センターに紹介してもらっている。こうした人となげを常に意識して事業実施してもらいたい。 <p>（４）の乳児家庭全戸訪問事業で、全戸訪問できなかった理由は？</p>
<p>事務局：木村課長</p>	<p>→保健師は様々な活動をしている。地域で孤立しがちなお母さんを相談できる子育て支援センターにつなげている。今後は子育て世代包括支援センターとして健康づくり課では拡大展開していく考え。利用者支援事業にほぼ現在該当している。</p>
<p>事務局：圓川主査</p>	<p>→全戸訪問の対象者数は 212 人で訪問できた数は 209 人。3 人出来なかったが、初めての子ではなく、上がいるから来なくていいというのが主な理由。複数人子供がいれば、その子の訪問ができなくても兄弟を知っていることが多い。</p>
<p>宮里委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者支援事業は小学校入学までの子どもが対象か？

事務局：木村課長	→主に未就学の子。子育て関係全般。保健師も限定した活動をしているわけではないので、相談には対応する。
井上委員	・小学校入学後、育ちの中で大丈夫かと心配になったとき相談できる場所が少ない。子育て世代包括支援センターを作るなら、小学生も相談できるようにしてほしい。親として心強い。
松倉委員	・子育て世代包括支援センターとなると福祉の専門職が助言するのだろう。保健師以外のソーシャルワーカー、福祉士などどういう人がいるのか？
島津健康福祉部長	→社会福祉課に精神保健福祉士が1人いる。また、小学生の育ち、発達心配な場合は療育相談を週2日（月・木）実施している。臨床心理士や言語聴覚士が相談にのっている。小学校や保育所などを心理士や療育アドバイザーが訪問し、気になるお子さんに関し、助言やアドバイスをして、保護者が福祉サービスにつながり易くしている。
松倉委員	・制度的にはここが管轄しているという話だろう。包括支援という名前であるならば、妊娠期から子育て期まで広く支えていくことを目指し、これはあっち、それはこっちではない実施の仕方を考えてほしい。
島津健康福祉部長	→今までは縦割りであった。今後は子育てに関しても一括して相談を受け、支援をやっていく。
鈴木副会長	・巡回訪問は随分保育園として助けてもらっている。保育園だけでは終わらず、学校まで連携している。どういった支えが必要かと動いている。他市より進んでいると思っている。
宮里委員	・（6）の子育て短期支援事業だが、ニーズが無いから必要に応じて検討となっている。緊急に必要なとき対処してくるのか？放課後だけでなく日をまたい

<p>事務局：木村課長</p>	<p>で必要な時どうしたら良いのか？</p> <p>→緊急に対する整備は遅れている。突発的に起こる、昼夜を問わず預かれるシステムの構築はかなり難易度が高い。今後は児童福祉施設に協力をいただくのか、行政がやるのか、慎重に検討して、実施に向けた方策を考えていく必要がある。虐待、養育支援の観点からも確保していかなければいけない。課題としてとらえている。提案を是非していただきたい。</p>
<p>松倉委員</p>	<p>・児童養護施設での預かりになるだろう。こういう場合の受け入れの話はできているのか？</p>
<p>事務局：中山</p>	<p>→施設にお願いすることになる。現在契約はしていない。昨年緊急で相談を受けたことはある。契約は無いが施設に直接電話して相談した。入所が満員で受け入れ不可能だった。他も同様。結果、保護者が何とかあったので利用までには至らなかったが、今後は契約を考えなければいけない。緊急の場合は相談をしていただければ。</p>
<p>松倉委員</p>	<p>・事前にその関係性を築いておけば。</p>
<p>事務局：中山</p>	<p>→少しでも前に進めたい。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>・他市ではやっているのか？</p>
<p>事務局：中山</p>	<p>→木更津市では実施している。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>・問題提起があったので、調べて検討していただきたい。</p>
<p>鈴木副会長</p>	<p>・子育て支援拠点事業の天羽地区では担い手がいないと課題にある。うちの子育て支援センターは上総湊に週1回出張で実施している。利用者が20組くらい来る時もある。ニーズはあるので、何とか支えていきたいという思いがある。早い時期の方針を立てて示してもらえれば、実施に向けた準備も考えられる。</p>
<p>事務局：木村課長</p>	<p>→市としては民間ありきではない。利用者支援も含め</p>

<p>鈴木副会長</p> <p>事務局：木村課長</p>	<p>検討している。担い手のいないところでは公設も視野に含めている。</p> <p>・今まで保育園併設ではない形という説明であった。方針を早く決めてほしい。</p> <p>→天羽地区の話になっているが、富津地区も拡大の必要がある。青堀地区の放課後児童クラブの課題もある。</p> <p>支援センター、放課後児童クラブの方針を決め、可能な限り早い段階で示したい。事務局案を整えて、次回示せればと考えている。</p>
<p>相澤委員</p> <p>事務局：木村課長</p>	<p>・どこに問い合わせたら良いのかわからないという親が多い。改めて、周知の機会を設けても良いだろう。</p> <p>→周知不足は十分承知している。手段の1つとして9月に子育て応援ガイドブックを発行する。完成すれば、子育て世帯全戸に配布する。それ以外にも広報していく。</p>
<p>鈴木副会長</p> <p>事務局：木村課長</p>	<p>・子育て応援ガイドブックはゲラの段階で見せてほしかった。</p> <p>→対応する。予定は9月だが、ずれ込んでも良いものが発行できれば良い。</p>
<p>相澤委員</p> <p>事務局：木村課長</p>	<p>・提案だが、ガイドブックは一目で分かるように欲しい。細部まで見ないので、ダイジェスト、ポスター的なものを挟み込んでおくような工夫も必要だろう。</p> <p>→提案いただいたことを織り込んで発行したい。</p>
<p>渡辺会長</p>	<p>< (3) 子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直し方針（案）について ></p> <p>議題（3）子ども・子育て支援事業計画の中間年の見直し方針（案）について事務局の説明を求める。</p> <p>《資料3について説明》</p>

事務局：木村課長	<ul style="list-style-type: none"> ・見直しの趣旨、考え方、対象期間、対象事業など方針を説明。
鈴木副会長	<p>○意見、質疑</p> <ul style="list-style-type: none"> ・30年、31年の目先の計画。見直しではなく、マイナーチェンジだろう。最初の計画を作ったときから、柱の事業が都市型事業だと感じている。国の方針に沿ったものを作っても、市として地域の施策、方策の例示が無い。独自のものは何だろう。3つのグループで話し合ってきた経緯がある。先を見据えて続けて議論していきたい。 <p>たとえば、保育園や学校の給食施設設備を地域の独居老人の給食サービスと合わせて、学校レストラン保育園レストランとして実施してはどうか。まちとして有る財産を活かしていくアイデアを出し合うことが大事。その先を議論する時間をいただきたい。</p>
事務局：木村課長	<p>→都市型の保育需要、課題があって国が示している。</p> <p>待機児童問題が解決しない自治体もある。富津市では児童の減少が著しい。市として子育て支援施策、市独自に何かできないか検討していく。今回は中間年の見直し。今後子育て計画自体が一斉になくなるわけではない。次期計画策定もあり得るので、新たな方策、新たな考え方をいただき、骨組みを考えていきたい。可能な限り民意を反映させた計画を考えている。</p>
渡辺会長	<p>< (4) その他 ></p> <p>その他として何かあるか。</p>

<p>鴫田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが肺炎で入院し、母親が仕事を休んで付き添った。熱は下がっても登園停止期間だと仕事を休まないといけない。ファミサポでは対応してもらえなかった。今後のファミサポの病児、病後児の対応の考えは？
<p>事務局：木村課長</p>	<p>→現在のファミサポの体制では難しいとのこと。提供会員も少ない。病児や病後児を預かるにも研修や知識も必要である。今後は病後児保育から拡大していきたい。</p>
<p>鴫田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での保育に欠ける場合と説明があったが、病後児は親が見るのが前提なのか？
<p>事務局：木村課長</p>	<p>→病後児保育の前提は子どもを見る人がいない場合である。病後児の対象は回復期にある子供。一義的には保護者に見ていただきたい。</p>
<p>鈴木副会長</p>	<p>今年度中に制度設計、実施方法の検討も含め、はっきりさせたい。可能であれば整備までしたい。</p>
<p>鈴木副会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現在富津保育園で病後児保育を実施しているが、距離の問題もあるだろう。また、他の保育園に在園していると頼みづらいこともあるのではないか。
<p>事務局：木村課長</p>	<p>→そういう点もあるだろう。市で実施することも検討している。市民が均等にサービスを受けられることを念頭に置いて進める。</p>
<p>鈴木副会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・老人保健施設「わかくさ」に従業員向けの託児施設がある。医者もいる。高齢者の施設に病気の子供が行く問題もあるが、検討の対象に加えてはどうか。
<p>事務局：木村課長</p>	<p>→病児保育となると、医療機関の協力体制は確実にないといけない。可能であれば併設ないし隣接。ゆくゆくは考えていく。</p>
<p>鴫田委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まだ先か。
<p>事務局：木村課長</p>	<p>→まずは病後児保育を充実させてから。一足飛びに病</p>

<p>鴫田委員 松倉委員</p>	<p>児保育とはいうのは難しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・承知した。休みづらい場合もある。安心が欲しい。 ・子育て支援事業だけですべてを担っていくのは難しい。国もワークライフバランスを目指している。職場環境が変わらなければ、子育て世帯を周りがどう見ていくのか、子育てサービスを作っても、作っても追いつかないと感じている。市だけでなく、地域がどう支えていくのか議論していければよいと感じた。
<p>渡辺会長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・どこから手を付けるのか。働き方改革、社会の仕組みを変える。行政が率先してアプローチしていくのも良い。課題があることを認識して、どうやって行政が取り組んでいくのか、具体的に話し合っただければと思う。 <p>その他、事務局からあるか。</p>
<p>事務局：中山</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次回会議のタイミングで子育て応援ガイドブックを見ていただくことが難しい場合、郵送でお手元に届け、意見を伺うでもよろしいか。
<p>委員席</p>	<p>了承</p>
<p>事務局：中山</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次回会議は9月下旬を予定している。日程確定後ご案内する。
<p>渡辺会長</p>	<p>会議日程はすべて終了した。以上で閉会とする。</p> <p>16時25分 閉会</p>